

生成AI×人材育成

～人材育成担当者の実務と従業員向け活用研修のポイント～

IDEA DEVELOPMENT(株) 代表取締役 Jason Durkee

■研修企画から効果測定までAIの活用余地は大きい

生成AIと人材育成の可能性を考えたとき、検討すべき方向性は大きく2つある。1つは人材育成担当者自身がAIをどのように利用し研修実務を効率化するか、もう1つは現場の従業員たちがAIを活用していく際の使い方をどう研修していくかだ。従業員にAI活用のメリットや扱い方を教えるにあたっては、先に人材育成担当者自身を使ってみて利便性や限界を知っておいたほうがポイントを外さずに有効な手を打てる。そこで、本稿でも、まず【人材育成担当者編】を先に紹介し、研修企画、研修設計、教材作成、研修実施、定着フォロー、効果測定の各段階でのAI活用法を解説する構成をとった。実際、プロンプトの精度次第で、研修企画から教材作成、定着フォローのリマインダー送信まで、AIはかなり有効性の高いアウトプットを実現してくれることが分かる。続けて【従業員編】では情報収集、メール作成、プレゼン資料作成、外国語対応での活用法をガイドし、それぞれ「人材育成のポイント」を載せた。生成AIを人材育成の場に取り込んでいく要点が把握できたら、実際にご自身でトライしてみてはいかがだろう。(編集部)

CONTENTS

【生成AI×人材育成】

No.0 「目的」をよく意識しよう

【人材育成担当者編】

No.1 研修内容を考える

No.2 事前に知識レベルを把握するアセスメントを作る

No.3 演習のバリエーションを考える

No.4 研修の教材を効率よく作る

No.5 研修後の定着フォローを強化する

No.6 研修効果測定をしっかりと行う

【従業員編】

No.7 効率よく情報収集する

No.8 短時間でメールとレポートを書く

No.9 気軽にプレゼンテーションスライドを作成する

No.10 生成AIを使って楽に外国語対応をする

【人材育成施策】

No.11 生成AIを使いこなせるように研修を実施しよう

■Jason Durkee (ジェイソン・ダーキー) :

米国シアトル生まれ。1992年に来日し上智大学に入学。卒業後、研修企画会社に就職し10年間勤務。2003年に独立起業。日本を代表する大手企業から外資系企業まで幅広い業種のクライアントに対して、研修プログラムの企画および講師として、5万人以上の能力アップとビジネス成果の向上に貢献した実績を持つ。著作に『ビジネス英語の技術』『ガツンといえる英語』(Japan Times) ほか。

■IDEA DEVELOPMENT(株) アイディア社 :

企業向け研修の企画・実施サービス、企業内人材育成のコンサルティング・サービスを展開。優れたアイデアを生み出すクリエイティブな力、価値を生み出すコミュニケーションができる力、グローバル競争を勝ち抜く力、リーダーシップ、4つの「力」の開発に定評がある。

●住所：東京都新宿区新宿2-2-10 サニープラザ新宿御苑606 ●TEL：03-5368-0890

●URL：https://ide-development.com

